

高品質がテーマです。

ICOM

ウイズコール
Withcall

特定小電力トランシーバー

IC-4008
IC-4008B

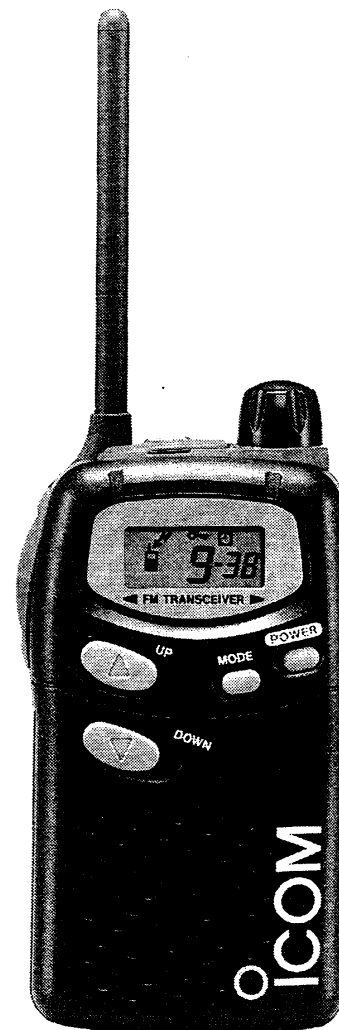
アイコム株式会社

本社	547-0002	大阪市平野区加美東6-9-16	TEL 011-251-3888
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0003	大阪市平野区加美南1-8-35	TEL 06-793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

A-5481S-1J-③
© 1998 Icom Inc.

Icom Inc.



はじめに

このたびは、IC-4008/IC-4008Bをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機は、技術基準適合証明に認定された、特定小電力トランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとも、いつでも読めるよう大切に保管してください。

IC-4008とIC-4008Bとでは交信できません。

機能や使いかたは同じですが、使用する周波数が違うため、IC-4008とIC-4008Bとの交信はできません。

標準構成

- 無線機本体(アンテナ付き、電池含まず) 1
- ベルトクリップ 1
- 取扱説明書
- 保証書

■電源用電池について

本機の電源には、単3形乾電池(3本、4.5V)または別売品の充電式バッテリーパックをご使用ください。

乾電池で運用される場合、アルカリ電池をおすすめします。

※市販されている乾電池には、マンガン電池など数種類ありますが、本機にはアルカリ電池が適しています。

◎アルカリ電池の運用時間(寿命)は、送信1分、受信1分、待ち受け8分(1:1:8の時間比)の割合で使用した場合、約60時間です。

目次

1 安全上のご注意	3
2 ご使用前の準備	11
3 各部の名称と機能	13
■操作部	13
■表示部	15
4 交信のしかた	16
■交信時のアドバイス	18
5 圏内確認のしかた	19
6 グループ機能の使いかた	20
7 ベル機能の使いかた	21
1. ベル音の種類を設定する	21
2. 接続確認用ベルの使いかた	21
3. 呼び出しベルの使いかた	22
8 その他の便利な機能	23
1. モニター機能の使いかた	23
2. 電池の残量表示について	23
3. キーロック機能の使いかた	24
4. ワンタッチPTTの使いかた	25
5. ビープ音のON/OFFのしかた	25
6. オートパワーオフ機能の設定	26
7. その他自動的に動作する機能	26
9 別売品とその使いかた	27
1. バッテリーパックBP-202について	28
2. 急速充電器BC-119Lについて	29
■充電のしかた	29
3. スピーカーマイクHM-75Aについて	31
4. スピーカーマイク/ヘッドセットの接続	32
10 保守点検とアフターサービス	33
■故障かな?と思ったら	33
■リセットのしかた〔初期状態に戻す〕	34
■アフターサービスについて	35
■日常のお手入れと点検について	36
11 定格	37
操作の早見表	38

1 安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

- ◎ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ◎次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎お読みになったあとは、いつでも読めるところに大切に保管してください。

■無線機本体について

△危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 引火性ガスの発生する場所では、使用しないでください。引火、火災、爆発の原因になります。

△警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 航空機内や病院内などの使用を禁止された区域では、使用しないでください。電波障害により運航の安全に支障をきたしたり、医療機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

△注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- 無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところに置かないでください。落ちたり倒れたりして、火災、けが、故障の原因になります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター・クーラーの噴き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。変形、変色、火災、故障の原因になります。
- 水につけないでください。本機は日常生活防水構造(JIS保護等級4防まつ形)ですが、水につけると、感電、故障の原因になります。
- 指定以外のバッテリーパックや電源を接続しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- 指定以外の別売品を接続しないでください。発熱、故障の原因になります。
- テレビやラジオの近くで送信しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
- 機器内部に金属物や異物を入れないでください。火災、感電、故障の原因になります。

■バッテリーパックBP-202について

**危険**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、破裂、発火、発熱、感電、火傷、液漏れの原因になります。

- 専用充電器BC-119L以外で充電しないでください。
- バッテリーパックは、本機以外の機器に使用しないでください。
- 火の中に投げ入れたり、加熱したりしないでください。
- ハンダ付けをしたり、加工したりしないでください。
- プラス ⊕ とマイナス ⊖ を針金などの金属類や導電性のあるもので、接続しないでください。
- 火のそばやストーブのそば、炎天下などの高温になる場所で、使用、充電、放置しないでください。
- ◆ 電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けて下さい。

**警告**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、発火、感電、液漏れの原因になります。

- バッテリーパックの上に工具などの金属類や導電性のあるものを置かないでください。また、導電性のあるものといっしょに持ち運んだり、保管しないでください。
- 電池をぬらしたり、水につけたりしないでください。
- 電池を分解したり、改造したりしないでください。

**注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液漏れ、サビ、性能や寿命の低下の原因になります。

- +10～+40℃の温度範囲以外では、充電しないでください。
- 高温になる場所で使用したり、放置しないでください。
- 寒い戸外で充電したり、冷えたままで充電しないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 無線機を長時間使用しないときは、バッテリーパックを取り外し、周囲温度が-20～+35℃で、湿気の少ない場所に保管してください。
- 乳幼児の手が届かない場所で使用、保管してください。

■充電器BC-119Lについて

⚠ 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、破裂、発火、発熱、感電、火傷、液漏れの原因になります。

- 指定以外の電源に接続しないでください。
- 指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
- 乾電池を充電しないでください。
- 充電器を分解したり、改造したりしないでください。
- バッテリーパックのプラス ⊕ とマイナス ⊖ の極性をまちがえないでください。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、感電、発熱、火傷、けが、故障、液漏れの原因になります。

- 本体や接続コードの接点部に金属類を差し込まないでください。
- 安全のため、小児が使用するときには、保護者が正しい使用方法を十分に教えてください。また、使用中も正しく使用しているか注意してください。
- 乳幼児の手の届かないところで使用・保管してください。
- 煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常が起きたときは、電源コードを電源から抜き、販売店または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液漏れ、火傷、けがおよび性能や寿命の低下の原因になります。

- +10℃～+40℃の周囲温度以外では、充電しないでください。
- 直射日光の当たるところ、発熱体のそばなど、高温の場所で使用・保管しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所で使用・保管しないでください。
- 電源コードの上に乗ったり、重い物を乗せたりしないでください。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ひっぱたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源コードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。
- 保管するときは、-20℃～+60℃の温度範囲で湿気の少ないところに保管してください。

取り扱い上のご注意


- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヶ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックが満充電になったあと、短時間運用して繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態となり、電池を劣化させる原因になります。
このときは、完全に放電(電池を完全に使い切った状態)してから充電してください。
- 機器を、極端に寒いところから持ち込んだとき、結露することがあります。
結露したときは、水分を拭き取ってからご使用ください。
- 機器を水の中に入れてください。
多少の雨の中でも使用できますが、水につけると故障の原因になります。
雨にぬれたときなどは、乾いた布で拭いたあと、電池と本体を別々にして十分に乾かしてください。
- 機器を清掃するとき、シンナーやベンジンを使わないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になります。
ふだんは柔らかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませて拭いてください。
- 充電器の充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあります。
ときどき充電端子部を、清掃してください。
- 磁気を利用したカード(キャッシュカード、定期券など)を無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- 無線機をほうり投げたり、アンテナを持って無線機を持ち運んだりしないでください。
- 市販の単3形ニカド電池は、使用しないでください。
電圧のばらつきや接触抵抗によって、発熱、液漏れ、故障の原因になります。


◆おねがい

- ◇特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他にもらし、これを窃用することは、電波法でたく禁じられています。
- ◇使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◇本製品は、厳重な管理のもとに生産、出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早くお買い求めいただいた販売店、または弊社営業所へご連絡ください。

◆おことわり

- ◇この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。
- ◇本文の操作説明に使用している操作図や状態表示は、操作時の一例ですから、ご使用の機器の状態と一致しないことがあります。
- ◇操作図の中でスイッチをふつうに短く押すときと、長く(1秒以上)押すときの区別を次のように表現しています。

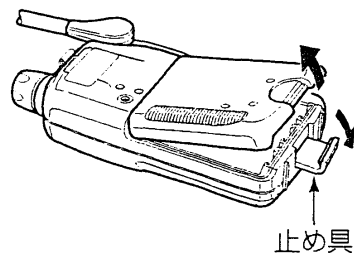
 → 短く押すとき

 → 長く(1秒以上)押すとき

- ◇ビーブ音(操作音)などは、出荷時の初期状態で説明していますので、運用中に各種の設定を変えている場合は、説明とちがうことがあります。

■電池を入れる

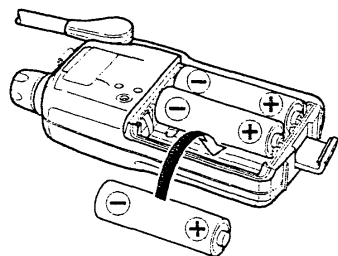
1. 電池カバーをはずす



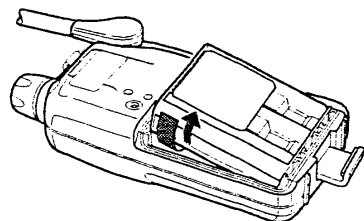
①電池カバーの止め具をはずし、電池カバーを取りはずします。
※電池カバーの止め具をかたくしていますので、コインなどを利用してはずしてください。

②市販の単3形電池を3本用意し、プラス⊕、マイナス⊖をまちがえないように入れてください。

2. 電池を入れる

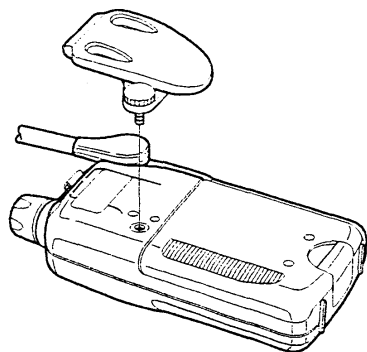


■バッテリーパックのはずしかた



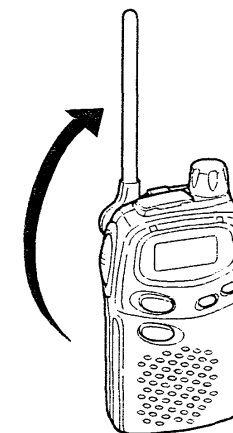
■ベルトクリップを取り付ける

本体背面に取り付けます。
運用中にゆるまないようにしっかりとネジをしめつけてください。



■アンテナを立てる

運用するときは、必ずアンテナを立ててください。
アンテナを閉じておくと、極端に感度が悪くなり、交信できません。



■充電する (BP-202使用時)

別売のバッテリーパックをお買い上げいただいたときは、必ず充電してください。

《お願い》

バッテリーパックおよび充電については、27～30ページを必ずお読みください。



■操作部

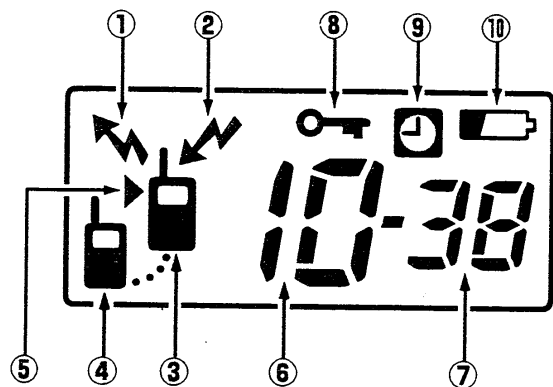


名 称	おもな機能
①アンテナ	電波を発射したり、受信する部分です。 通話しないときは、本体背面に収納できます。
②PTT(通話)スイッチ	送信と受信を切り替えるスイッチです。 送信するときは、スイッチを押しながらマイクに向かって話してください。 スイッチを離すと、受信ができます。

③UP(アップ)/DOWN(ダウン)スイッチ △/▽〔注・欄外〕	通話チャンネルを切り替えるスイッチです。 1回押すごとにチャンネルがアップ/ダウンし、押し続けると連続動作になります。 グループ番号設定モード時は、グループ番号の設定ができます。
④電池収納部	単3形乾電池または指定の充電式バッテリーパックを入れる部分です。
⑤スピーカーマイク端子	別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続する端子です。 接続しないときは、ホコリや雨を防ぐため、ゴムカバーでフタをしてください。
⑥VOL(音量)ツマミ	音量を調整するツマミです。 右に回すと、音が大きくなります。
⑦表示部	運用状態を表示します。(P.15参照)
⑧POWER(電源)スイッチ	本機の電源を“ON/OFF”するスイッチです。 電源を“ON”にするととき1秒以上押し、キーロック機能(P.24参照)が動作します。
⑨MODE(モード)スイッチ	通話(交信)するモードと、グループ番号の設定モードを切り替えるスイッチです。 また、このスイッチを1秒以上押し、モニター機能(P.23参照)が動作します。
⑩マイクロホン部	超小型のマイクロホンを内蔵しています。 別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続すると、内蔵マイクは動作しません。
⑪スピーカー部	超小型のスピーカーを内蔵しています。 別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続すると、内蔵スピーカーは動作しません。

〔注〕このページ以降の操作説明では、UPスイッチを【△】スイッチに、DOWNスイッチを【▽】スイッチとして説明しています。

■操作部

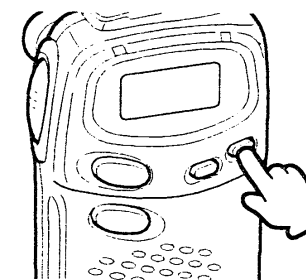


①送信表示	送信中を表示します。
②受信表示	受信中を表示します。
③自局表示	自局を表わし、①②④⑤の表示と組み合わせて自局の運用状態を表示します。
④圏内/圏外表示	圏内確認機能が“ON”のとき、相手局が通信圏内(点灯)か圏外(点滅)かを表示します。
⑤ワンタッチPTT表示	ワンタッチPTT機能が“ON”であることを表示し、送信中は点滅、受信中および待ち受け時は点灯します。
⑥チャンネル表示	通話チャンネル番号を表示します。
⑦グループ番号表示	グループ番号を表示します。
⑧キーロック表示	キーロック機能が“ON”のとき、点灯します。
⑨オートパワーオフ表示	オートパワーオフ機能が“ON”のとき、点灯します。
⑩電池残量表示 (電池マーク)	電池の容量が少なくなると、点灯します。 さらに少なくなると、点滅します。

1 電源を入れる

【電源】スイッチを押します。

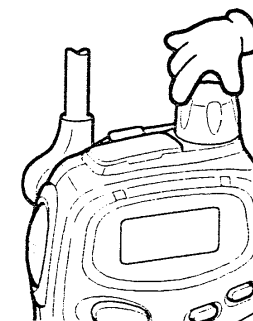
- “ピピッ”音が鳴り、表示部が点灯します。
電源を切る前に使用していた状態の表示になります。



2 音量を調整する

【音量】つまみを回します。

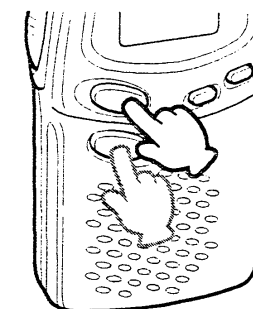
- 信号を受信していないときは、【MODE】スイッチを1秒以上押し、「ザー」という雑音が出ますから、その音で調整してください。調整後はもう一度【MODE】スイッチを1秒以上押ししてください。



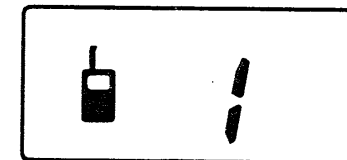
3 通話チャンネルを合わせる

【△】または【▽】スイッチを押し、チャンネルを設定します。

- IC-4008は1～9、IC-4008Bは1～11チャンネルあります。
 - 相手局と通話チャンネルを合わせていないと交信できません。
- ※【△】/【▽】スイッチは、押し続けると連続動作しますが、1チャンネルになると“ピピッ”が鳴り、止まります。
いったんスイッチを離すと、再操作ができます。



例.通話チャンネルを1に設定



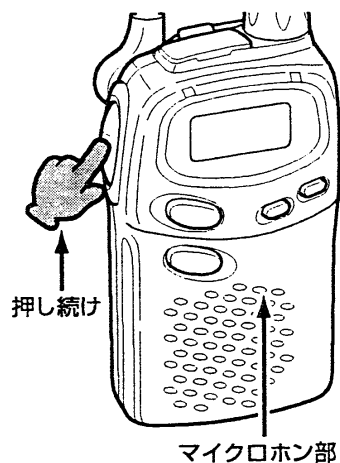
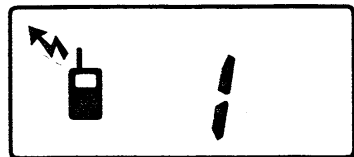
ご注意：IC-4008とIC-4008Bとの交信は、同じチャンネル表示にしているにもかかわらず、使用する周波数が違うためできません。

4 送信する

【PTT】スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって通話相手局を呼び出します。

- 送信中(【PTT】スイッチを押している間)は、表示部に送信表示が点灯します。

送信中の表示例

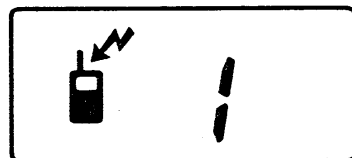


5 受信する

【PTT】スイッチを離すと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば音声が入り受信になります。

- 受信中は、表示部に受信表示が点灯します。
- 待ち受け状態のとき、送信、受信表示は消灯しています。

受信中の表示例



受信表示は、通話相手以外の信号(同一チャンネルで他局が交信中)を受信しているときも点灯します。

6 交信する

送信と受信は交互に行います。相手局が送信しているときは、【PTT】スイッチを押しても“ブブブ”音が鳴り、送信できません。

送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、交互の会話がスムーズになります。

■電源を切るときは

【POWER】スイッチを少し長く押します。

※表示部の表示が消えるまで押し続けてください。

交信時のアドバイス

■通話(送信)時間の制限について

連続して通話できる時間は「3分以内」と電波法で定めています。通話時間が終了する10秒前になると、“ピー”音で知らせます。通話時間が3分になると“ブブブ”と警告音が鳴り、自動的に通話が切れます。また、3分以内でも2秒以上通話が途切れると、自動的に通話切れになります。

◇通話が切れると2秒間は休止時間になり、回線はつながりません。2~3秒後【PTT】スイッチを押し、呼び出しをすれば通話を再開できます。

■交信範囲について

電波の届く範囲は、周囲の状況(建物や山など)により異なりますが、おおよそのめやすは次のとおりです。

- 見通しのよい場所 : 約2km
- 郊外 : 約1~2km
- 高速道路 : 約500m
- 市街地 : 約100~200m

◇交信範囲であっても、建物のかげなどに入りますと、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して交信するようにしてください。

■マイクロホンの使いかた

マイクロホンに向かって話すときは、口元から5cmほど離し、ふつうの大きさの声で話しかけてください。

マイクロホンを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって明瞭度が悪くなりますのでご注意ください。

■相手局の声が途切れたり弱くなるときは、モニター機能を使う

受信中に相手の声が聞こえにくいときは、【MODE】スイッチを1秒以上押すと、モニター機能が動作し、音が途切れなくなります。

ただし、通信の状況により効果のない場合があります。

〔モニター機能の使いかた→P.23参照〕

5 圏内確認のしかた

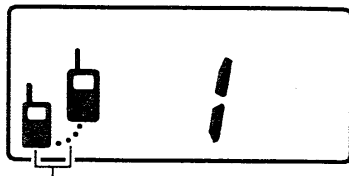
圏内確認機能は、交信する相手局が圏内(電波の届く範囲)か、圏外かを自動的に判別する機能です。

1 圏内確認機能を“ON”にする

【PTT】スイッチを押しながら、【MODE】スイッチを押します。

- 圏内表示が点灯します。

上記操作をするごとに、圏内確認機能が“ON/OFF”します。



圏内表示点灯(設定後約5秒間)

2 圏内/圏外を確認する

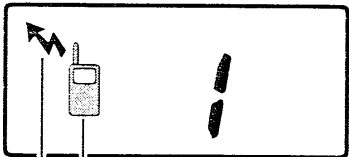
1の操作をすると、約5秒後に1回目の圏内確認動作(自動的に)をします。

◆相手局が圏内なら：圏内表示点灯

◆相手局が圏外なら：圏内表示点滅

以後、圏内確認は1分間隔で動作し、変化があれば表示を変えます。

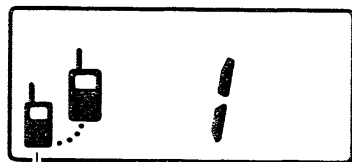
圏内確認動作中の表示



点滅

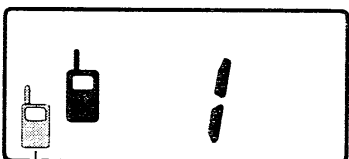
約2秒間点灯

相手局が圏内のとき



点灯

相手局が圏外のとき



点滅

3 交信する

圏内表示になっていることを確認し、交信してください。

圏外表示のときは、交信できません。

■圏内確認機能を“OFF”にするには

上記1の操作をして、圏内表示を消灯させてください。

6 グループ機能の使いかた

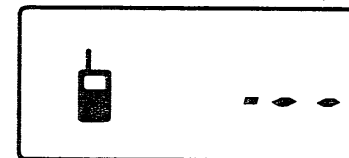
グループ機能は、通話チャンネルとグループ番号の一致した局だけと通信するための機能で、特定の相手局またはグループ局と交信するのに便利な機能です。

1 グループ設定表示にする

【MODE】スイッチを押します。

- グループ番号設定表示になります。以前にグループ設定している場合は、その番号を表示します。

グループ番号設定表示(初期時)



2 グループ番号を設定する

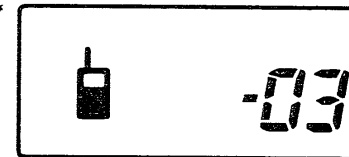
【△】/【▽】スイッチを押すごとに

グループ番号が切り替わりますので、使用するグループ番号を選びます。

押し続けると連続して切り替えます。

※押し続けると“---”で止まりますから、押しなおしてください。

例.グループ番号3を設定

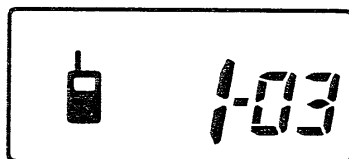


グループ番号は、1~38まで設定できます。

3 設定を終了する

【MODE】スイッチを押します。

- 通話チャンネルと設定したグループ番号の表示になります。



◎以後、同一チャンネルで同じグループ番号の局だけと交信できます。

グループ内の交信は、同一グループのすべての局に聞こえます。

※グループ以外の局が同一チャンネルを使用中は、交信できません。

◎交信のしかたは、16~17ページをご覧ください。

■グループ機能を解除するとき

グループ機能を使用しないときは、上記2の操作をして“---”(番号表示なし)に設定してください。

7 ベル機能の使いかた

ベル機能は、通話相手局を呼び出すとき、電話のように呼び出し音(ベル音)を鳴らして呼び出す機能です。

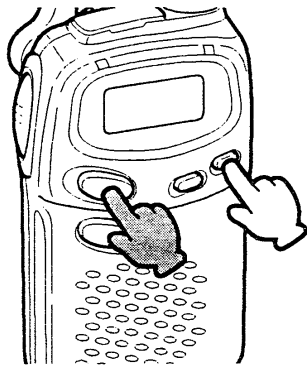
なお、ベルには相手局との接続確認用ベルと、通話中にいつでも送出することができる呼び出しベルがあります。

1. ベル音の種類を設定する

1 ベル音の設定表示にする

いったん電源を切り、【△】スイッチを押しながら【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

ベル音の設定表示(初期時)

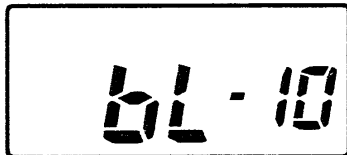


2 ベル音の種類を設定する

【△】または【▽】スイッチを押します。押すごとに表示が切り替わり、同時にそれぞれのベル音を鳴らします。使いたいベル音に設定してください。

- ベル音は10種類あります。

例.ベル音を10番目の種類に設定



◎【MODE】スイッチを押し、設定を終了します。

2. 接続確認用ベルの使いかた

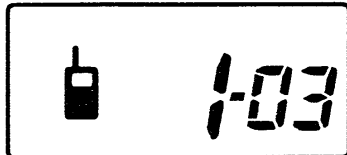
接続確認用ベルは、グループ運用にしていないと使用できません。

1 グループ機能を“ON”にする

交信する相手局と同じグループ番号にします。

グループ番号の設定→P.20参照

グループ運用の表示例

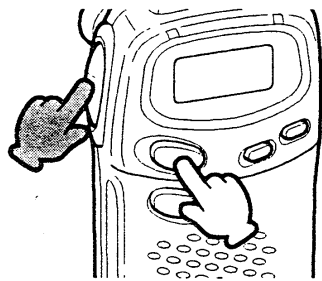


2 接続確認用ベルを送る

【PTT】スイッチを押しながら、【△】スイッチを1回押します。

このとき操作音“ビビビビ”が鳴ります。(ベル音ではありません)

- 自動的に接続信号を送出し、相手局との接続確認をします。



- ◆接続ができると、送信側、受信側とも約10秒間ベルが鳴ります。

ベル音は、送信側、受信側でそれぞれ前ページで設定した種類のベル音になります。

- ◆接続ができないときは、送信側で“ブブブ”音が鳴り、ベルを送りません。(通話相手が圏外、通話チャネルが異なる場合など)

- ◆ベルが鳴り出したら【PTT】スイッチを押します。ベルが止まり、通話ができます。(ベルが鳴り終わってからも通話できます)

3. 呼び出しベルの使いかた

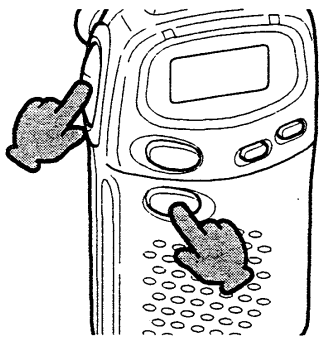
呼び出しベルは、通話開始の合図や通話中に相手が出なくなったときの、再呼び出しなどに使用できます。

呼び出しベルは、グループ機能のON/OFFに関係なく動作します。

■ 呼び出しベルを送る

【PTT】スイッチを押しながら、【▽】スイッチを押し続けます。

- スイッチを押している間、前ページで設定したベル音を送ります。
- 受信側では、送信側と同じベル音が同じ時間鳴りますので、個別にちがうベル音にしておけば、呼び出し相手をベル音で判別できます。



- ◆ベルが鳴っているときに【PTT】スイッチを押すと、ベルが止まり通話ができます。音声を送信中に【▽】スイッチを押すと、音声の送信を止め、ベルを送り出します。

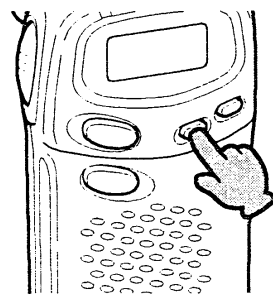
1. モニター機能の使いかた

モニター機能は、受信中に相手の音声が途切れたり、弱くなったりしたときに、聞こえやすくする機能です。

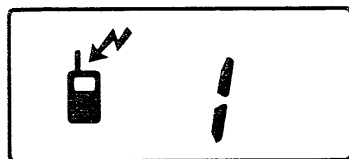
《モニターのしかた》

受信中に相手の音声が聞こえにくくなれば、【MODE】スイッチを1秒以上押します。

- モニター機能が動作し、音声が聞こえやすくなります。
- ※通信の状況により、効果のない場合もあります。



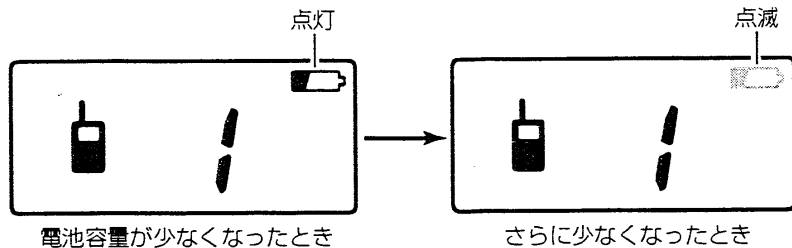
- モニター機能が動作しているときは、受信表示が点灯します。



- モニター機能を解除するときは、もう一度【MODE】スイッチを1秒以上押します。

2. 電池の残量表示について

電池の容量が残り少なくなると、表示部に電池マークが点灯し、さらに少なくなると点滅します。



- ◆ 乾電池の場合、点滅したらすべて新しい電池と交換してください。
- ◆ バッテリーパックBP-202の場合、点灯したら充電してください。

3. キーロック機能の使いかた

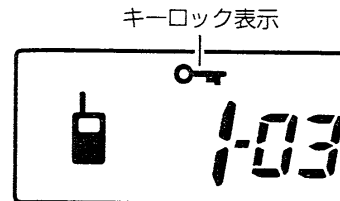
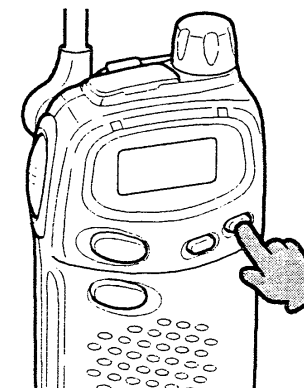
不用意にスイッチに触れても、設定内容(表示)が変わらないように、スイッチ操作を無効にする機能です。

キーロック中は、表示している相手と交信する操作だけができ、交信以外の操作をできなくしています。

《キーロックのしかた》

いったん電源を切ります。

【POWER】スイッチを約2秒ほど押すと、電源が入りキーロック表示が点灯します。



キーロックにすると、【MODE】スイッチおよび【△】/【▽】スイッチの操作を無効にします。

《キーロック中の操作範囲》

キーロックにしているときは、下記の操作だけができます。

- ◇ 電源のON/OFF操作
- ◇ PTTスイッチによる送信操作および受信
- ◇ VOLツマミによる音量調整
- ◇ PTTと△/▽スイッチによるベル送信
- ◇ キーロックの解除

◎ キーロック中は、いったん電源を切ってから各種の機能を設定する操作も無効にしています。

- キーロックの解除は、電源を切り、もう一度【POWER】スイッチを約2秒押し電源を入れます。

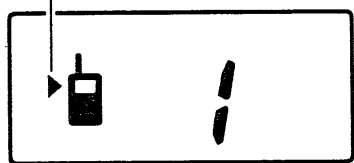
4. ワンタッチPTTの使いかた

通常PTTスイッチは押している間送信し、離して受信になります。ワンタッチPTTは、PTTスイッチを1回押すごとに送信と受信を切り替える機能で、PTTスイッチの押し続け操作を省くことができます。

《設定のしかた》

いったん電源を切り、【PTT】スイッチを押しながら、【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

ワンタッチPTTの表示



◎以後、PTTスイッチを1回押すと送信状態になりますので、そのあとはPTTスイッチを押さずに、マイクに向かって話しかけます。もう1回押すと送信が切れ、受信状態になります。

■ワンタッチPTTの解除は、上記設定と同じ操作をして、ワンタッチPTT表示を消灯させます。

5. ビープ音のON/OFFのしかた

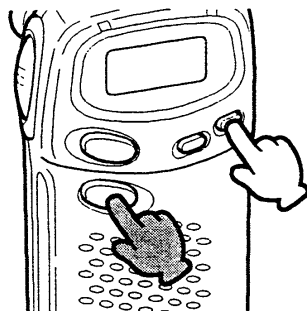
スイッチ操作をしたときに鳴る操作音を、ビープ音といいます。このビープ音をON/OFFすることができます。

《設定のしかた》

いったん電源を切り、【▽】スイッチを押しながら、【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

- 上記操作をするごとにON/OFFが切り替わります。

※操作時以外に鳴る警告音やベル音は、この設定に関係ありません。



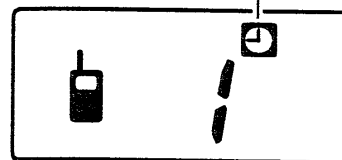
6. オートパワーオフ機能の設定

なにも操作しない状態が2時間以上続くと、自動的に電源を切る機能で、電源を切り忘れても安全です。

《設定のしかた》

いったん電源を切り、【MODE】スイッチを押しながら、【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

オートパワーオフの表示



◎以後、スイッチ操作をしない状態が2時間続くと、自動的に電源が切れます。

電源が切れる1分前に“ピピピピピ”音が鳴り、さらに電源が切れる直前には“ピピ”音が5回鳴ります。

◎なにか操作をしたり、電源をON/OFFすることによりオートパワーオフの2時間タイマーがスタートします。

■オートパワーオフ機能の解除は、上記設定と同じ操作をして、オートパワーオフ表示を消灯させます。

7. その他自動的に動作する機能

◇表示部の自動照明

スイッチ操作をすると、表示部に照明が点灯します。

この照明は、操作しない状態が5秒続くと、自動的に消灯します。

◇パワーセーブ機能

パワーセーブは、送受信および操作のない状態が5秒以上続くと、機器を自動的に休止状態にします。

電池の消耗を最小限に抑えるための機能で、自動的に動作します。

本機をさらに効率よく、便利にお使いいただくため、下記の別売品を用意いたしました。

BP-202	ニカドバッテリーパック(3.6V 700mA)
BC-119L	BP-202 専用急速充電器
HM-74	スピーカーマイク
HM-75A	リモコン機能付きスピーカーマイク
HS-85	VOX機能(音声による送受信切り替え機能)付きヘッドセット

■バッテリーパックおよび充電器をご使用になる前に

⚠ 警告

- ◎バッテリーパックおよび急速充電器は、ご使用前に『安全上のご注意』(3~9ページ)を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
- ◎バッテリーパックBP-202は、専用充電器BC-119L以外で充電しないでください。
- ◎充電器BC-119LでBP-202以外のバッテリーパックや、乾電池類を充電しないでください。
- ◎上記BP-202およびBC-119Lを、本機システム以外の目的で使用しないでください。

1. バッテリーパックBP-202について

■充電時期について

- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、長期間(約2カ月以上)使用していなかったときは、必ず充電してください。
- ◎表示部に電池マークが点灯すると、数回の発信はできますが、すぐに点滅に変わり使用できなくなります。
電池マークが点滅になる前に、充電することをおすすめします。

■運用時間のめやす

- ◎BP-202の運用時間のめやすは、次のようになっています。
送信1分：受信1分：待ち受け8分(発：1：8の時間比)の割合で使用した場合、約24時間です。

バッテリーパック充電時のご注意

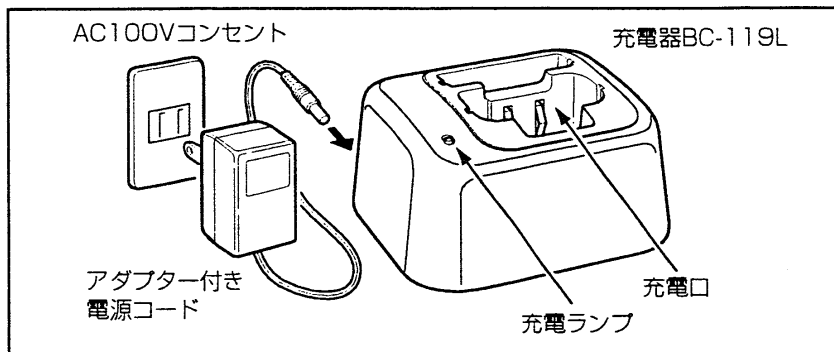
- バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切って充電してください。
- バッテリーパックの寿命(充電回数)は、正しく充電されていれば、約300回がめやすです。
指定時間充電しても、運用時間が極端に短くなりだしたときは、バッテリーパックの交換時期です。
- 充電するときの温度範囲は、+10℃~+40℃です。
極端な高温・低温になる場所では、充電できないことがあります。
- バッテリーパックが満充電になったのち、短時間運用して(電池の容量がまだ十分にあるとき)繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態になります。
このときは、電池を完全に放電(電池を使いきる)してから、再充電してください。
短時間運用して充電の繰り返しは、電池の劣化にもつながりますのでおやめください。

1. 急速充電器BC-119Lについて

■充電のしかた

1. 電源を接続する

AC100Vコンセントに、付属の電源コード(アダプター付き)で接続してください。



2. バッテリーパックまたは無線機を充電口にセットする

充電するときは、次ページの図のように無線機本体のまま充電する方法と、バッテリーパック単独で充電する方法があります。バッテリーパックを単独で充電するときは、充電口の中央部に仕切板を差し込みます。

バッテリーパックの向きに注意して(右図参照)セットしてください。

3. 充電中は、充電ランプが橙色に点灯します。

4. 充電が完了すると、充電ランプは緑色に変わります。

◎充電時間は、約70~80分です。

電池の残容量により、ばらつきがあります。

⚠ 警告

充電しないときや充電完了後は、安全のため電源コードをACコンセントから抜いてください。

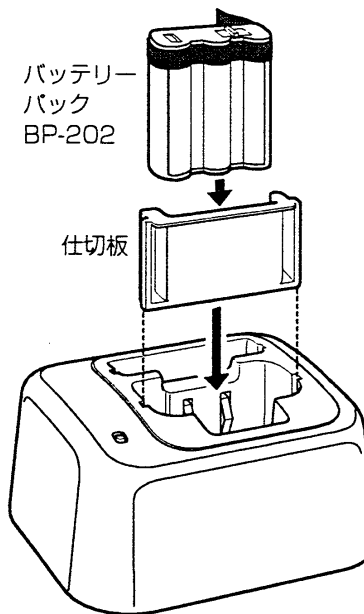
充電器へのセット方法

⚠ 注意

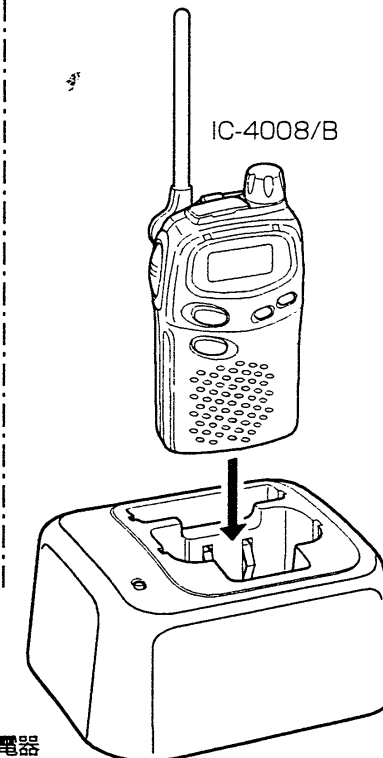
バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切ってください。

◇バッテリーパックを単独で充電するとき

※バッテリーパックを反対向きにセットすると、充電ランプ(橙色)は点灯しません。



◇バッテリーパックを本体に装着したまま充電するとき

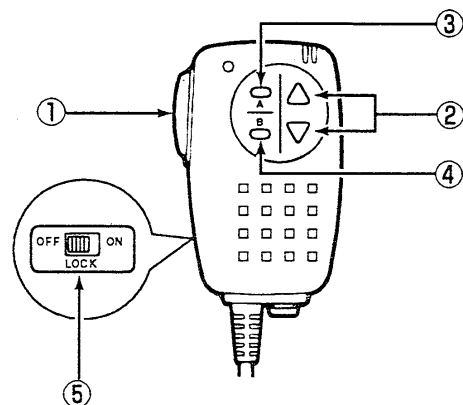


2. スピーカーマイクHM-75Aについて

HM-75Aは、本体スイッチの操作と同じ操作を手元でできる、リモコン機能付きの便利なスピーカマイクです。

本体上部のスピーカマイク端子に接続してください。(P.32参照)

《HM-75Aの使いかた》

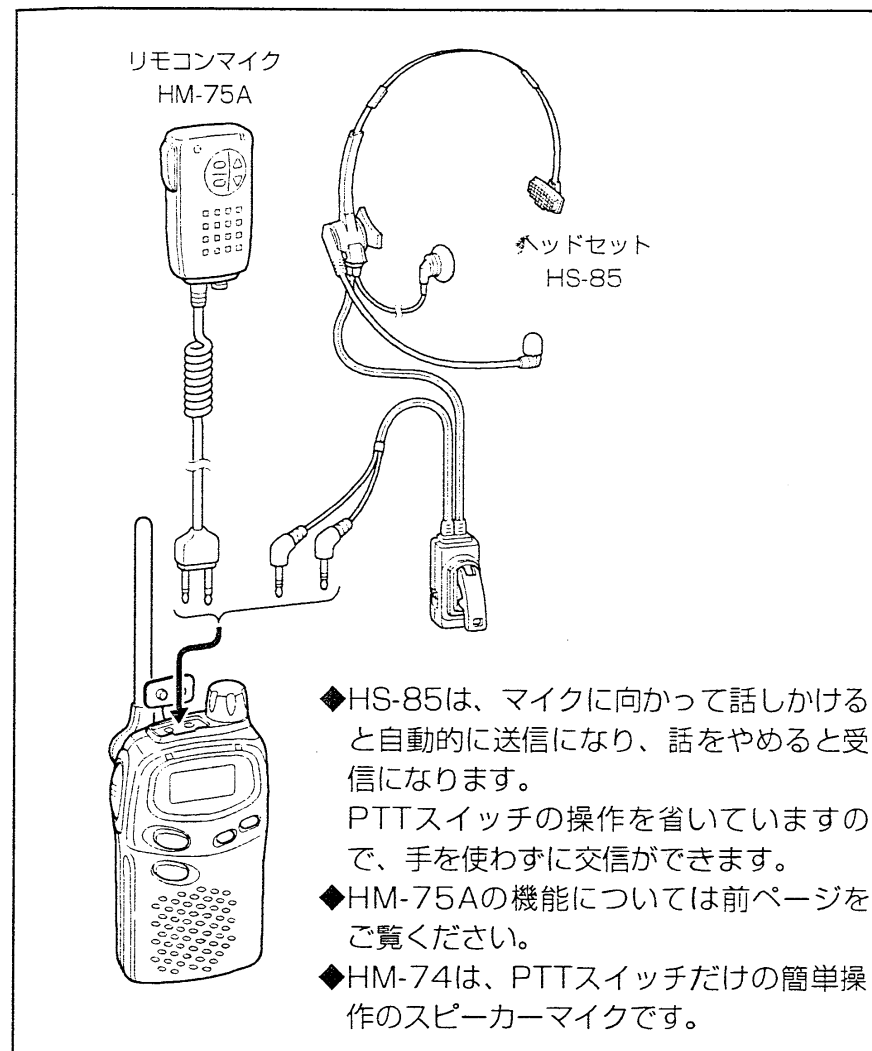


①PTTスイッチ	本体PTTスイッチと同様に、送受信を切り替えるスイッチです。 ※ワンタッチPTT機能は使えません。
②△/▽スイッチ (UP/DOWN)	本体△/▽スイッチと同様に、チャンネルまたはグループ番号のアップ/ダウンおよびPTTスイッチと併せてベルの送信ができます。
③Aスイッチ	接続確認用ベルを送出するスイッチです。
④Bスイッチ	このスイッチは、押し続けている間だけモニター機能をONにします。(本体【MODE】スイッチを1秒以上押すのと同じ動作)
⑤LOCKスイッチ	HM-75Aの裏面のスイッチで、上記②③④のスイッチをキーロックし、無効にします。

3. スピーカマイク/ヘッドセットの接続

スピーカマイクまたはヘッドセットは、下図のように本体上部のスピーカマイク端子に接続します。

スピーカマイクを接続すると、本体のスピーカおよびマイクは、動作しなくなります。



- ◆HS-85は、マイクに向かって話しかけると自動的に送信になり、話をやめると受信になります。
PTTスイッチの操作を省いていますので、手を使わずに交信ができます。
- ◆HM-75Aの機能については前ページをご覧ください。
- ◆HM-74は、PTTスイッチだけの簡単操作のスピーカマイクです。

■故障かな?と思ったら

下記のような症状は故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

症状	原因	処置
電源が入らない	電池の極性まちがい	極性を確認して入れなおす
	電池の消耗	乾電池の場合は交換する バッテリーパックの場合は充電する
チャンネルまたはグループ番号が切り替わらない	キーロックがONになっている (キーロック表示点灯)	いったん電源を切る POWERスイッチを約2秒押し、キーロックをOFFにする(キーロック表示消灯)
送信できない (プッププが鳴る)	3分間の通話制限時間がすぎたとき	2~3秒待ってから、もう一度送信する
	他局が送信しているとき	受信表示が消灯してから送信する
呼び出しをしても相手が出てこない	相手と通話チャンネルまたはグループ番号が合っていない	相手局と設定を合わせる ※設定が合っていれば相手局が不在、電源断等が原因
交信できない	相手との距離が離れすぎている	場所を移動してから交信してみる
	アンテナを閉じたままにしている	アンテナを完全に立てる
	圏外表示(点滅)になっているとき	圏内表示(点灯)に変わるまで待つ

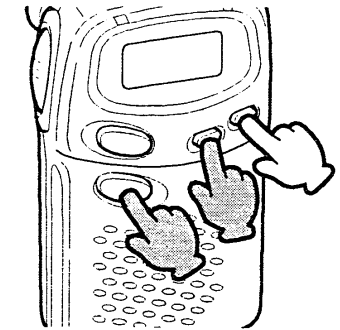
リセットのしかた(初期状態に戻す)

前ページの処置をしても異常があるとき、あるいはいろいろな機能を設定したが初期状態に戻したいときなどは、次のリセット操作をすると、工場出荷時の状態になります。

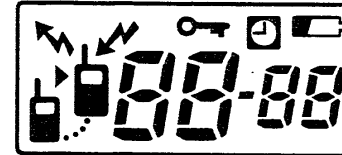
《リセット操作のしかた》

いったん電源を切り、【MODE】スイッチと【▽】スイッチを押しながら、【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

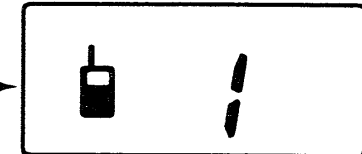
- 約3秒間すべての表示が点灯したのち、チャンネル1だけの表示になります。



約3秒間全点灯



通話チャンネル1に戻る



※キーロック(キーロック表示点灯)にしているときは、リセット操作はできません。キーロックを解除してください。(P.24参照)

《リセット後の状態》

リセット操作をすると、設定していた機能が次のように初期状態に戻りますから、運用に必要な機能は再設定してください。

- ◇通話チャンネル : 1 (P.16参照)
- ◇グループ機能 : OFF (P.20参照)
- ◇キーロック機能 : OFF (P.24参照)
- ◇ワンタッチPTT機能 : OFF (P.25参照)
- ◇ベル音の種類 : bL-01 (P.21参照)
- ◇オートパワーオフ機能 : OFF (P.26参照)
- ◇ビープ(操作音)機能 : ON (P.25参照)

■故障のときは

製品はすべて厳重な品質管理と、厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店または弊社営業所まで、故障状況をできるだけ具体的にご連絡ください。

■アフターサービスについて

保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

修理を依頼されるとき

「故障かなと?と思ったら」(P.33)にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。
修理することにより、機能を維持できる製品については、ご希望により、有料で修理させていただきます。

アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

◎弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

■日常のお手入れと点検について

◎ふだんのお手入れは、やわらかい布で拭いてください。
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませて、拭いてください。
特に充電器の充電端子部は汚れやすいため、ときどき点検し、清掃してください。

◎無線機を使用する前に、電池の容量が十分あるか、電池マークを確認(電池マークが消灯していること)してください。
また、電池は正しくセットされているか、アンテナは最良の状態に引き出しているかを確認してください。

◎音量が最小または最大にセットされていないか、音量ツマミの位置を確認してください。
受信音が聞こえやすい位置にセットしておきます。

◎定期的に、決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。

◎機器が雨にぬれたときなどは、電池を取り出し、乾いた布で本体と電池をよく拭き、十分に乾かしてください。
特に電池収容部分はよく拭いてください。
また、別売品を接続していた場合も、別売品を本体からはずし、水分を拭きとってから、十分に乾かしてください。

12 定格

■IC-4008/4008Bの定格

送受信周波数	IC-4008 : 422.2000~422.3000MHz IC-4008B : 422.0500~422.1750MHz
通信方式	単信方式
チャンネル数	IC-4008 : 9CH IC-4008B : 11CH
電波型式	F3E(8K50F3E) IDはF1D
周波数安定度	±4ppm(-10℃~+50℃)
使用温度範囲	-10℃~+50℃
電源電圧	DC4.5V(動作範囲3.24~5.0V)
消費電流	送信時 : 70mA以下 受信待ち受け時 : 50mA以下 受信最大出力時 : 140mA以下 パワーセーブ時 : 約23mA
送信出力	10mW (+20/-50%)
低周波出力	100mW(4.5V/8Ω負荷/10%歪時)
変調方式	可変リアクタンス周波数変調
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度	-14dBμ以下 12dB SINAD
外形寸法	102.5(H)×55.5(W)×26.5(D)mm 突起物は除く
重量	約180g(乾電池を含む)

■BC-119Lの定格 (急速充電器)

入力電圧	DC12~16V, 1A (専用ACアダプター使用)
使用温度範囲	+10℃~+40℃
保存温度範囲	-20℃~+60℃
重量	約270g
寸法	60(H)×120(W)×104(D)mm

■BP-202の定格 (ニカドバッテリーパック)

定格電圧	DC3.6V
電流容量	700mAh

操作の早見表

操作の種類	スイッチ操作	参照ページ
電源のON/OFF	POWER	P.16
音量の調整	VOL(ツマミ)	P.16
チャンネル/グループの切り替え	MODE	P.20
チャンネルのアップ/ダウン	UP[△]/DOWN[▽]	P.16
グループ番号のアップ/ダウン	UP[△]/DOWN[▽]	P.20
送信/受信の切り替え	PTT	P.17
圏内/圏外表示のON/OFF	PTT+MODE	P.19
接続確認用ベルの送出	PTT+UP[△]	P.21
呼び出しベルの送出	PTT+DOWN[▽]	P.22
ベル音の種類の設定*	1.UP[△]+POWER 2.UP[△]/DOWN[▽]	P.21
モニターのON/OFF	MODE(1秒以上)	P.23
キーロックのON/OFF*	POWER(約2秒)	P.24
ワンタッチPTTのON/OFF*	PTT+POWER	P.25
ビーブ(操作音)ON/OFF*	DOWN[▽]+POWER	P.25
オートパワーオフのON/OFF*	MODE+POWER	P.26
リセット操作*	MODE+DOWN[▽] +POWER	P.34

操作の種類欄で※印のついた操作は、いったん電源を切ってから、右のスイッチ操作をしてください。

スイッチ操作欄の+記号は、○○スイッチを押しながら、XXスイッチを押す操作のことです。